

夏越祭

(7月29日)

無病息災
除災招福



岡田宮夏越祭 ごあんない

岡田宮

— (宝永四年) 一七〇七年 貝原益軒書 —

第29号

平成12年7月吉日
発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番1号
郵便番号 806-0033
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330

明治天皇御製

わが国は神のすゑなり神祭る
昔の手ぶり忘るなよゆめ

平成十二年七月二十九日 ① 午後六時～九時
(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来する
という古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。参列の方には
大祓詞をさしあげます。
ふるつてご参加ください。

当日ご参拝の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

魔除けとして玄関に奉斎して下さい。

■無病息災・除災招福御神酒接待

ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。

■総当たり福引き・かき氷

地元青年会の屋台がたちます。

いづれも一回100円

■アニメ上映(ピカチュウ等)



当日この券をご持参下さい。
福引き・かき氷のいづれか
1回が無料になります。

福引券

神社総代研修会

三月二十八日 曇時々雨

片田一夫総代会副会長以下四十四名を乗せたバスは熊本県熊本市龍田町鎮座の代継宮に向けて出発。



代継宮は応和元年(961)の創建で、ご祭神は住吉大神を始め応神天皇、神功皇后、紀貴之朝臣、細川藤孝朝臣です。

神社に到着後正式参拝

お祓いの後、漆島宮司様の講和を拝聴させて頂き、ご神刀や代継太鼓を見せて頂きました。

昼食後、熊本県指定重要文化財の旧細川刑部邸を見学。二万五千石の上級武家屋敷に相応しく、すばらしい建物でした。

今回も多くの神社関係の研修をしてまいりましたので、今後の神社運営に反映していきたいと思えます。

郷土地名考 29

脇田(わいた)

脇ノ浦にならぶ漁港。脇に田があるから脇田ではダジャレに近い。漁師は無論、釣人にも常識だが北九州地方では、潮流が暗礁の都合で滞留するようなどころを、ワイと呼んでいる。近くの逆水地名に見るように、干満に従って起こる関門海峡の潮流に対して逆流が起こるのが逆水で、本流と逆流の間にはワイが生まれる。脇田の海がこのワイに当たる。ワイ+接尾語タが脇田ではあるまいか。夕は彼方、此方、道端の夕である。

もうひとつはワイタという風の名。ワイタともワイダとも呼ぶが主に北東の強風を指している。一九八七年二月三日、建設中の白島洋上石油備蓄基地が大シケに襲われて防波堤が寸断決壊した。これもシベリヤから吹く北東の暴風が引き起こす吹送波という激浪のためだ。

脇田は西側に八幡崎を背負い北東に湾口が開き、この風をまともに受けることになる。風に対する畏れが

地名の根拠ではあるまいか。

白島(しらしま)

日本書記に柴島、筑前国統風土記の解釈は「柴多く生ずる故に柴島といいしを後に転じて白島といひけるにや。白と柴とその訓近ければなり」。白島海域は古来からの好漁場、いつから筑前の経済水域になつていたか。1558年(弘治4)、領主麻生家が脇田、脇ノ浦、柏原の漁業権紛争に下した判決文書がある。三ヶ年共同漁場、その後は脇田浦の専管漁場というわけだ。

また一説、1691年(元禄4)の古文書、白島が長州藩領であったころ毛利元就回国の折、白島沖合に停泊したところ乗った船のイカリが根がかりして動かず、脇田浦の「くわい」という水泳選手がもぐってイカリを外した。感激して元就が、白島を「くわい」に下賜した。以後脇田裏に帰属と。いま巨大な洋上石油備蓄基地建設が操業権を奪った。こんなはずではなかったと泉下の「くわい」は意外に思っているだろう。

七五三

七五三祭は、子供の成育にともない折り目、折り目に神社にお参りして、いつそその息災成長を祈る行事です。

三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成十二年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

- 三歳 平成十年生
 - 五歳 平成八年生
 - 七歳 平成六年生
- ※年齢はかぞえ年です。

※毎月午前九時より午後五時まで受付をしています。



神社 なぜ 問答

(その29)



Q

稲荷神社の鳥居が朱塗りなのはなぜでしょうか。また、狐を稲荷神のお使いとするようになった理由についても教えてください。

由についても教えてください。

A

稲荷神社は、農村部では五穀豊穣を祈る農業神として、また都市部では商売繁盛や病気平癒などの神様として庶民の篤い崇敬を受けています。

さて、稲荷神社の社頭には、崇敬者から奉納された鳥居が幾重にも建てられていることがあり、殆どが朱塗りの鳥居です。

朱色は生命の躍動を現すとともに、古来より災厄を防ぐ色としても重視されてきました。このため古くは御殿や神社の神殿などに多く用いられており、稲荷神社の鳥居の朱色もこの影響によるものと考えられます。

一方、狐を稲荷神のお使いとすることですが、これは稲荷神の農耕神としての性格と関連するものと考えられます。この信仰は、イナリ語源をイネナリの訳とするなど、田の神に対する信仰と深く結びついたものでした。田の神の信仰は当然のことながら、食物神でもある「倉稲魂神（うかのみたまのかみ）」と繋がりが、稲の穂りの季節が近くなると、山から人里近くに現れるようになる狐の姿を、人々が神聖なものとして捉えたことによると考えられます。

狐は稲の豊穣をもたらす山の神の

使いであり、山の神は里に降つては田の神となるため、狐は田の神である稲荷神の使いということになるわけです。

後には、食物神の総称とも言える「御食津神（みけつかみ）」が「三狐津神（みけつかみ）」という記述をされることとなり、狐神に通ずることが一般に語られることから、稲荷神と狐の結び付きが連想されます。

この他にも、春日の鹿や日吉の猿など多くの動物が神の使いとされており、こうしたことは自然との共存を大切に考えてきた日本人の信仰によるものと言えます。



神祭り日本人の生活

弥生時代から現代まで、春秋の祭を中心として、日本人の生活は神祭りと密接なつながりをもってきました。特に古代から江戸時代まで、農業人口が八五%以上を占め、稲作が日本人の生活基盤を支えていた時代は、農耕を守る神の存在は、稲作農耕と切っても切れない関係にあったのです。長い農耕生活の中で、神さまに対する信頼が培われてきたのも、当然のことといえるでしょう。

近代以降、工業化の流れの中で、そうした農業人口は徐々に減り続け、そして戦後の高度成長以降急速に減少、現在専業農家は二、三%にまで減ってしまいました。その意味では、日本人の生活から稲作農耕と切っても切れない神祭りが衰退していくのもやむを得ないといえるでしょう。現に、ある日本思想学者は、神道は減びるとまで断言しているのです。

しかし、その一方で、前に述べたように、初詣や安産、七五三、初宮詣、商売繁盛、病氣平癒、交通安全、合格祈願など、さまざまな人々が今も神社に出かけ、神さまに祈り願うこと

が定着しています。その意味では神さまにご祈願する形は、農耕儀礼から個人祈願の場に変わってきているといえます。それは現代人の生活スタイルの変貌が大きな理由といえますが、それでもなおかつ神々への深い信頼と崇敬がその底流にあるのは、長い伝統の結果なのでしょう。そしてまた、基本的には日本の神々が、山や川や海やまたそこに生きる動植物といった自然そのものを信仰の対象とする自然信仰を基盤としていて、自然の大切さが叫ばれる現代の日本人の心に分かち難く結びついていることも大きな要因でしょう。



船の木

左につかえると右へ右につかえると左へ一分でも一厘でも仰びられるとき仰びられる方へ仰びておく木の根はかしこい
 おおきい岩を真二つにわつて天にせまるまで仰びきつた松の木えらい力だな
 お前には敬服する

弾力

ゴムまりは強くたたきつけるほど高くはねあがる
 弾力があるからだ穴のあいたまりはそのままだつぶれてしまう

弾力は気概であり意気であるたたかれるがいい
 不幸 災難 各種の打撃打たれるたびに とびあがれ

楽しい雰囲気・明るいスタジオ

(株) 有 写真館

岡田宮内にスタジオ完備

宮参り、七五三など

撮影時、衣装無料でお貸しします。

☎ 0120~62~2080

写真館



北九州プリンスホテル ペペ2F

インドアプール前にオープン

各種衣装取り揃えております。

☎ 0120~620~753